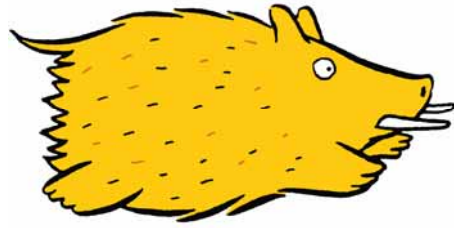




あれ！トマソン隊じゃあ無いのか



象の鼻編

by うさお



神奈川お台場辺りの上空写真
黄色の部分がお台場だった処

Google Earth より

© 2007 Europa Technologies
Image © 2007 Digital Earth Technology

© 2007 ZENRIN

今回もご近所ならでの情報が入ってきたので、くどいようですが神奈川のお台場を取り上げさせて貰います。そして、それに付随する「象の鼻」の話です。うさおの周りにも、根っからの「浜っ子」は大変少なくなったようです。お向かいに住まわれていた「NOBORU」ちゃん(子供の頃に遊んでもらったお兄ちゃんですが、もう還暦を過ぎています)も家売って引っ越すとのこと。寂しいなあ。

うさおの両親は横浜で生まれ育ちましたが、うさおは疎開先で戦後に生まれたので、生粋の横浜人と呼ぶには抵抗があるけどね。だから、うさおも含めて横浜の郷土史を知っている輩は本当に少なくなったと思うね。日出彦さんあたりが記憶のボーダーかな。

まっ、兎も角も東京のお台場は知らない人はいないけど、神奈川お台場は忘れ去られているところです。最近、このお台場の南側の海を埋め立て超高層住宅が建てられ始めました。(17文字の抒情詩参照)

そんな時に「神奈川お台場フォーラム」が、横浜港の波止場会館で開催するというので早速行ってみました。波止場会館は大棧橋の袂にある煤ボケた建物で大空襲にも焼け残ったという風情の建物です。

この海岸通には戦争当時には各国の領事館や大使館があるところで、元英国領事館の「開港記念館」もすぐ近くです。ホテル・ニューグランドも焼け残ったところを見ると米軍は意識してこのエリアを爆撃しなかったのかも。

逆に伊勢崎町周辺は焼け野原で、ここに農園を作ったくらいですから。

このフォーラムに市議さんだとかが来て、初っ端の挨拶をされたのには閉口しました。

長い挨拶の後は次の後援会があるからとそこそこに座をはずしました。それなら最初から来なくても良いのにと思いつつ、1500円も払ったのだからと配られたお茶をぐびり。

講演者は横浜開港資料館の研究員西川武臣氏で私たちが知らない資料を提示してくれました。

氏の講演の骨子は以下のとおり。

「右図は「御開港横浜正景」と言い、横浜開港資料館に所蔵されているもので、幕末に刊行された地図です。下方の海中に突き出した五角形の構造物が神奈川台場で、市街地が外人居留区を含めた開港場だったところです。東京湾の内にお台場が築かれるのは、西欧諸国の黒船が日本の沿岸に現れるようになってから、幕府は防衛のためにお台場を築き諸藩に対してもお台場の築造を命じました。



西川武臣氏

神奈川のお台場は横浜市神奈川区の海岸に、松山藩が万延元年（1860）に築造しました。この地は現在では周辺部の埋め立てが進み、かつての景観を知ることはできませんが、この台場は横浜地域唯一の台場であり、横浜市の貴重な史跡になっています。

この神奈川のお台場は、開港場に付随する施設として築造され、軍事施設よりも諸外国の外交団や外国の国王・大統領の誕生日などに儀礼として祝砲を発射する施設として利用されました。



波止場会館



昭和25年頃の関内牧場
横浜再現より



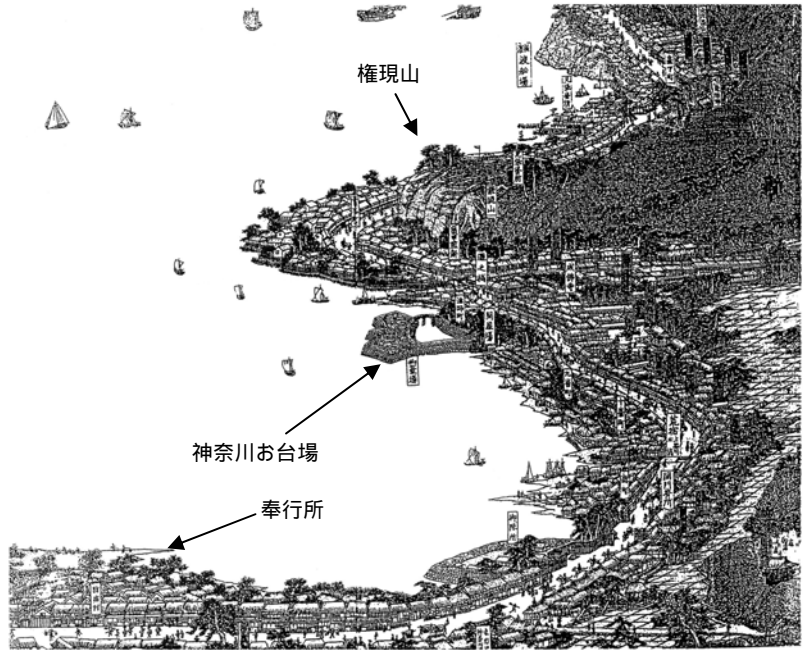
お台場の築造には多くの人びとが関わり、横浜市磯子区の旧家堤真和家からはお台場築造に使用するための岩塊を磯子の山から切り出したことを記した古記録が。また、保土ヶ谷宿の名主の苅部清兵衛が台場築造費を幕府に献納した古記録も残っています。

お台場の警備にあたった藩士や兵士の様子を記した記録、幕末から明治時代の台場の様子を描いた絵地図も残っています。お台場は観光地としても有名になり、多くの人びとが巨大な石組みに驚嘆の声をあげました。

残念ながら、台場は明治時代末年から周辺地域の埋め立てが進んだため、現在では石組みの一部が残されているにすぎません。震災と戦災で多くの史跡や歴史資料を失いましたが、土中とはいえ貴重な史跡が残されていることは大変喜ばしいことであり、台場への関心が高まることを願っています。(横浜開港資料館 H.P.)」

氏は史学博士の学位を持ち、すこし斜に構えて喋る癖がありますが、熱心な口調で好感の持てるお話でした。当日配布された氏の資料を借りてちょっと加工をして見ました。つまり上の絵と同じような画角にしてみました。とはいっても Google Earth の機能を借りただけですけどね。現代の地形と比べてみると権現山などは跡形もない状態で崩され、海だったところがすっかり陸地です。これでは昔の遺跡など判ろう筈がありません。

神奈川砲臺土手図・表海面横断面図
(社団法人土木学会：明治以前日本土木史，昭和11年6月，P.1290)





どの位の大砲があったのかと言うと、次のような記述があります。

1斤とはおおよそ 600g 程度のこと、60 斤とは 36kg のことかな？結構重いものが飛んでくることになるが、祝砲の時には空砲だからここでは弾はいらなかったと思えるけど。12 斤、6 斤の大砲には備えの弾が無かったのでしょうか？そんな風にも読み取れますよね。14 門の大砲があ

神奈川御台場 神奈川御台場御備大砲、其外附属御道具並合薬取調 一、大砲 六拾斤 三拾六斤 式拾四斤 此分御備玉拾有之 拾式斤 六斤 此分備玉無之 一、附属大胴乱 一、小道具 一、砂時計、三ツ入 一、掛タス 一、火門針 一、異国旗 外一巻流、是は奥西多利亞国旗、已九月二日、外政局より相廻り 一、日の丸旗 一、焼玉道具 一、弾葦其外 一、国旗棹 担、縄共		拾四門 壹門 拾門 壹門 壹門 壹門 壹門 拾式箱 拾箱 拾四 拾三本 拾壹流 壹流 四本 五拾式本 壹本
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	----------------------------------------------------------------------------------------------------

ったことは確からしいです。この砲台で何人かの砲兵が亡くなっているもようです。(砲兵なんて、なんて懐かしい名前でしょう。子供の頃に遊んだ軍人将棋を思い出します。) その方々の鎮魂のための「神奈川砲台招魂碑」があるんだって。浦島町にある宗興寺の中に一般のお墓に混じってあ



宗光(興)寺



ったため、つい最近まで誰にも気づかれなかったそうです。以前にこのお寺さんに行ったときには、浦島伝説とヘボン博士の碑に夢中で砲台までは気が回りませんでしたって、それは 2001 年のこ

と、まだこの碑は発見されていませんでした。お寺さんの入り口から、本堂までの間の南側に安置されていました。普通のお墓のようで知らなきゃ見逃しちゃいます。(『東京湾海堡ファンクラブ』会誌より)

その当時の記述として米刊誌『ザ ファー イースト：明治四年 1871 6.1. (陽暦)』に、神奈川砲台で爆発事故があり、1名が即死、ほかの1名は重傷のち死亡との記載があります。また、『東京横濱毎日新聞、明治十三年 1880 6.24.』では、「**さる 21 日は、英國女帝即位の當日なれば正午十二時、神奈川砲臺にても祝砲を放ちしが、同所詰合の砲兵卒佐藤某はこの砲の内部を掃除せんと筒先にて働き居たる折柄火薬の筒内に残居て忽ち爆発したれば憐れや佐藤は身體微塵に碎けて死し居たるに此の物音を聞附けて駆集まりたる**

人々も詮方なく昨日同驛宗光(興)寺内に埋葬したり」

『東京日日新聞、明治十四年 1891 2.9.』の記事に、「**神奈川砲臺 これまで神奈川の砲臺においては、大砲の据方の適当ならざるため、傷害を被むりし者あること既に三四回におよび足れば、今ど陸軍省にていよいよ据替となること決せられ、十四門のうち七門だけに着手なりしよし、又た是までは鑄鐵銃なりしを今度は銅銃とせられたりとか**

当時としては大砲の事故で死亡することは、大変なことだったようです。でも考えて見ますと、此の砲台の工事そのものも大変なものだったという記述があります。築造中にも結構たくさんの方が亡くなったのではと思います。「死んでしまおか、お台場へ行こうか、死ぬがましかえ、土かつぎ」と歌われていますので、その人たちの慰



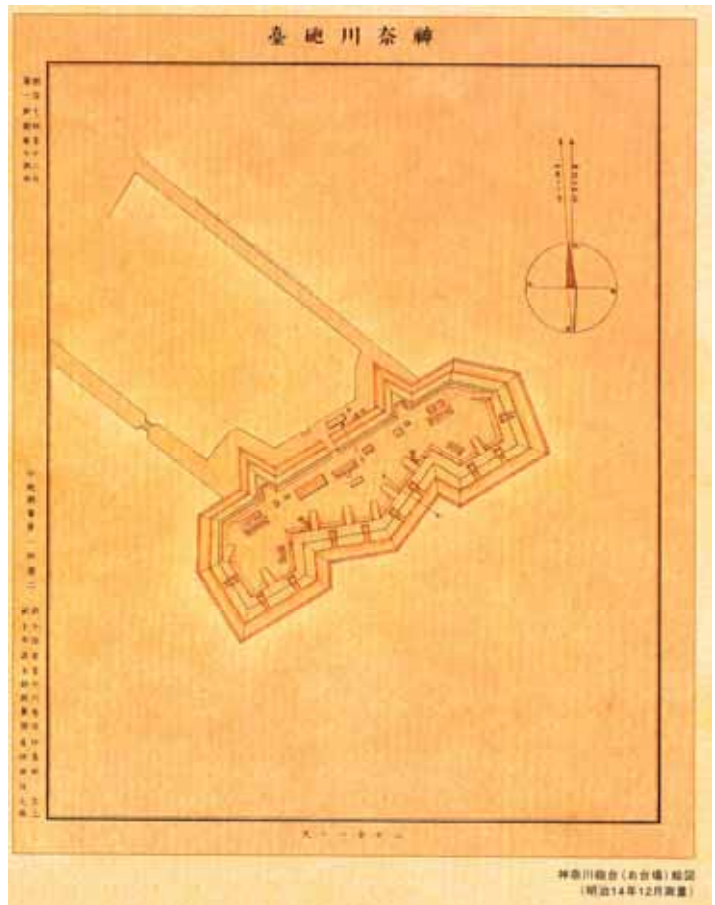
THE FAR EAST.

AN ILLUSTRATED FORTNIGHTLY NEWSPAPER.

[Vol. II, No. I. YOKOHAMA, THURSDAY, JUNE 1st, 1871. [Doppel Copy \$1.50]]

16
ページ

AN accident, resulting we regret fatally, has just been reported to us. On Monday last, while saluting Sir Harry Parkes and Mr. Von Brandt, on their departure from Japan, one of the cannon at Kanagawa fort, exploded, killing a Japanese gunner on the spot, and seriously injuring another. The latter was immediately carried to his quarters where efforts were made to staunch the blood from the wound on his head and chest, but without effect, and the unfortunate man died at about 4 P.M.





霊碑は無いのでしょうか？

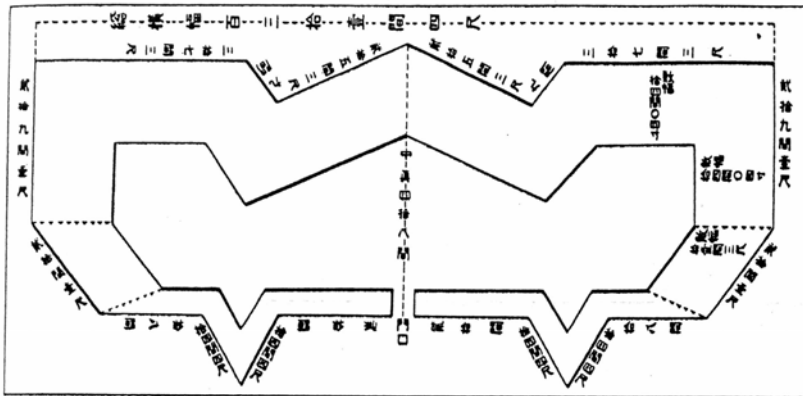
今まで話題としてもあがってこないですね。

さて、実際のお台場の位置を西川氏はこう推理しています。今のJR貨物の軌道配置を参考に地図に被せるとほぼ敷地の区切りと一致しているようです。

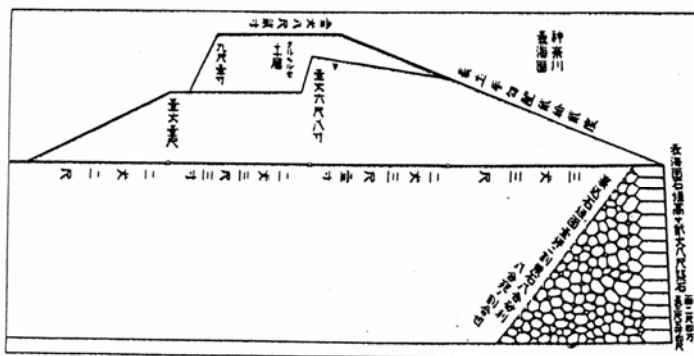
発見されている所は、碑の建っている、元は海だった西の際と、その下に位置する西取渡り道の一部(台場公園の処)と東南の端の高層住宅の開発を行う際に仮設の駐車場で石積が発見された処の3箇所です。

この南側の処を探しに行きましたが、トンと見つかりません。

いつもアンテナを立てていないとだめなのかなあ。一過性の見学会が多いですし、平日も多いので、しっかり情報を掴むには早く退職しなければいけないね。

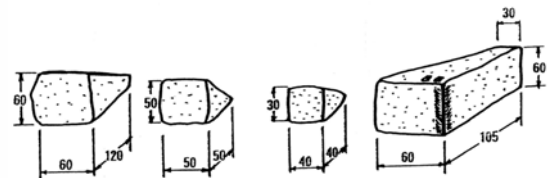


神奈川砲臺土手圖



神奈川砲臺海面断面圖

大型石材 中型石材 小型石材(渡り道) 隅石



上の石の割り図はこの砲台を造るときに使われたティピカルなもの。本当に使われているのか隅の石積で検証してみましょう。

記念碑の在る箇所では中に入れますので、石積みの角を見てみましょう。あっ、ありました、すりすりの刻みがはっきり見て取れます。

でも、此の刻みの意味は何でしょう。石の大きさは他と比べて格段に大きいですが、大型石材と木端口が同じなので、土工さんがうっかり間違えないように、片方に刻みを入れたのかも知れないね。





その他の石は、西の取渡り道の住宅街の路地に見受けることができます。何かそこいら辺に転がっている普通の石に見えますがね。

でも、地に埋まっていたものを転用したもののだが、遺物だからどこかに持ってやりしたら怒られるだろうね。

あっ、道路側に転がっているのは、物干し台のコンクリートですから。(ちょっと無理なギャグでした)(^^ お好きな方には砲台仕様を乗せておきます。

御砲台仕様

神奈川諏訪社より海中え出、西の方五十九間、東の方百一間砲台横長百三十一間四尺、奥行真中にて四十八間、四方折廻し三百七十四間四尺、絵画書人の通築立、左右取渡り道敷幅九間、高さ平均二間、道幅五間、両側にて長延二百間、表側捨土台松八寸角二枚割地面え据付、面留杭松丸太三寸五分、長三尺、二間に四本打、石垣高さ一丈二尺、周り勾配間地石一尺二三寸より五六寸まで、野面玄翁合口投げ築艦飼張飼共三浦岩入築立、其上三尺五寸土手形に築立、張芝裏側土留杭松丸太送り四本打、四尺通土俵にて法先足元土留め板切三方中仕切二ヶ所、長延四百間、高さ七尺、土俵小口積、幅腹付土共上端二間縫竹一と側置蛇腹伏

(一)表大隅五ヶ所、高さ岩床先端より二丈八尺、大竿石伊豆本堅石面二尺一寸四方角扣長五尺一ヶ所十四本重ね合口一ヶ所に鐵夕ボ長四寸大きき二寸角上下彫込二本宛打左右隅脇本取石面二尺二寸扣長二尺五寸より三尺まで面脇二本扣一本合口鑿切絵図面之通築立、同出隅入隅六ヶ所石仕様共同断隅脇本取石左右一本宛

(二)裏側石垣左右取渡道外長延二十六間、高さ岩床より二丈八尺、左右取渡り道内石垣長延百六間、高さ埋土上端より一丈六尺、此面坪四百四坪、伊豆堅石割出し間地石面一尺五寸より七寸まで、控長二尺より三尺まで野面合口胴摺合せ一坪に本割栗砂利共六合つ入、胴飼張飼艦飼共打堅め



では、いよいよ「象の鼻」の話です。確かに子供の頃に親父やお袋から「象の鼻」という言葉を聞いたことがあります。メリケン波止場に象の鼻があったという話です。そう言えば長い間、此の言葉は忘れていました。「象の鼻」とは大きく曲がった防波堤のことで、その曲がり具合から、その名が付きました。2ページ目の「YOKOHAMA CHART」をご覧ください。この時代には直線的



な埠はありますが、まだ出現していません。

その後の絵図を見てみると、その形が様々に変化していることが判ります。

今残っている実物を見てみましょう。大棧橋に付随して横に伸びているので唯の防波堤のように見えますが、確かにコンクリートは古いし、先端の灯台らしきものもちょっと貧弱で電柱のように見えますし、港町にあるようなものです。





その「象の鼻」を明治の時代のものに再現する修復工事が行われており、6段階の変化のうちどの鼻になるのかは知らないが、「みなとみらい21」の革新的な開発と「赤煉瓦倉庫」や貨物線跡を用いた遊歩道のようなレトロなものの継承も行われているようです。

此の遊歩道に立つと、クイーン、キング、ジャックの3つの建物を見ることができます。此の荷揚げ用のクレーンもできればそのまま残してほしい気がします。

